

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572100859		
法人名	有限会社ほほえみの里		
事業所名	グループホームほほえみの里		
所在地	宮崎県日向市東郷町山陰甲697-5 (電話) 0982-58-1323		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年12月16日	評価確定日	平成22年1月22日

## 【情報提供票より】 (平成21年11月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成18年2月14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤15人, 非常勤0人, 常勤換算7.25人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年11月10日現在)

利用者人数	15名	男性 3名	女性 12名
要介護1	4	要介護2	4
要介護3	5	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 84.26歳	最低 67歳	最高 103歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杏林会三股病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ほほえみの里は美々津ゴルフ場西部の山間部に位置し、丘陵地帯の斜面に建てられている。自然林を開いた南向きの開放的な場所で、日当たりは貴重な資源であるとの感じを受けた。建物内部も木目の美しい材料が使われ落ち着いた雰囲気である。管理者は就任して半年程度で、このホームでの経験は浅いが熱意は色々な場面で大いに感じられた。設立後3年半が経過し、ホームと地域との関係は良くなり、ホームのイベントが地元の人々の楽しみの一つとなっている。利用者の穏やかな表情も、管理者・職員との関係性の良さの表われかと思われる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では3項目の改善課題が提示された。①活動状況や利用者の暮らしを家族や地域の人々に伝える「ホーム便り」の作成は進展していた。②介護計画作成の前段階でのセンター方式等の情報ツール活用は姿こそ異なるが進捗中。③地元消防団との協力体制は十分築かれていた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義については理解しているが、自己評価の段階では管理者・責任者が中心となって作成し、職員全員による取り組みには至っていない。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) メンバーの全員参加にこだわっていたため開催頻度が少なく、会議を生かした取り組みまでには至っていない。今後は、全員参加にこだわらず、会議の開催頻度を多くする検討がなされている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時やホームの行事の際に、意見を聞き取る努力を継続している。以前には直接意見の例もあったが、現在では意見、苦情は少なくなっている。玄関には意見、苦情を受ける投書箱を設置し、意見等の集約にも努めている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域への日常の働きかけや運営者の消防団とのつながりによるPR活動等の努力が実りつつあり、ホームが主催する納涼祭や敬老会などに、家族や地元の人々が多く参加するようになった。また、地元の人々の好意によるみかん狩りやグランドゴルフ大会に職員や利用者が参加するなど、交流・連携が盛んになってきている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域とのつながりを意識し、時には母のように、また、兄弟、子どものように寄り添うという内容の理念が掲げられていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1日に1度は唱和することで理念を共有し、日々の活動に生かす取り組みをしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の人々との交流は、ホーム行事へ地元の人々の参加がある一方、みかん狩りや、小学校でのグランドゴルフへ職員と利用者が一緒に参加するなど盛んに行われている。また、自治会にも加入し、行事等に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義については、理解しているが、自己評価の段階では管理者・責任者が中心であり、職員全員による取り組みはなされていない。	○	年に一度、職員全員で自己評価をすることで、ケアに対するベクトル（力の方向）が揃っていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーの全員参加にこだわっていたため、開催が少なく会議を生かした取り組みまでには至っていない。地域との交流は活発化しているので、今後は全員参加にこだわらず、開催頻度を多くする検討がなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村合併による行政担当者との連絡調整の課題があるが、連絡や相談を密にしていきたいとの意向はある。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に健康状態や暮らしぶり、金銭管理について報告している。また、ホーム便りを随時作成し家族や地域に送付し、利用者の健康状態や行事、職員の異動等を報告・周知している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見、苦情投書箱を設置し、意見等の収集に努めている。以前、直接意見を言われた例があり、速やかに全職員で検討し改善を行った。現在は意見・苦情は少ない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着には力を入れているが、それでも退職者が出た場合は、残った職員でカバーし利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。カバーしきれない時には、家政婦紹介所を利用することも検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた研修、本人が希望する研修等に参加できる仕組みがある。研修で得た知識・技術は現場で生かせるように勉強会で周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日向市グループホーム連絡協議会の定例会に参加して意見交換したり、研修会の際に交流の努力をしている。管理者としてはさらに積極的に、お互いの悩みごとややりがい等の相談の場として活用する意向である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ入居前に本人にホームの見学にきてもらうようにし、また、使い慣れた品物を持ちこむように家族への協力を依頼している。現実には帰宅願望の利用者に苦慮することもあるが、全員で落ち着いた生活ができるように努力し成果をあげつつある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に日常生活をする中で、会話したり家事を行いながら昔からの知恵を教わったり、その人の特徴を引き出しながら支えあう関係を作りだしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・入居時の面談で本人、家族の思いを聞き、その希望に沿った暮らしができるように努めている。また、共に暮らす中で表出できない思いを汲み取る努力を重ねている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーからの情報や入居時・来訪時に家族から介護計画への希望を聞きだしている。介護計画作成の際には、ケアカンファレンスを行い職員が意見を出し合っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しを行っている。職員による評価結果を計画作成担当者に提出し、次回の計画へ反映するようにしている。状態の変化があった場合も、随時カンファレンスを行い計画の見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や本人の希望による外出は、原則的には家族にお願いしているが、対応困難な場合は職員が柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医は全員が協力医であり、月1回訪問診療をしてもらっている。眼科・皮膚科等に以前から通院している方は、継続して受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じて、早めに家族や協力医と話し合いを行うように努めている。ガン末期の利用者をほぼ最期までケアした実績がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人のプライドを傷つけないよう、表情や言葉遣いに十分配慮している。個人情報の取り扱いにも注意を払い、個別の記録類も職員だけが分かる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人のペースで生活できるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っているが、野菜の皮むきをお願いすることもある。片づけのできる方には手伝いをしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきの実施であるが、入浴時間はなるべく本人の希望に合わせている。季節の変化に合わせて、香りが楽しめる自然の入浴剤を使う工夫もしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	なるべく利用者の一人ひとりが役割を持てるような場面づくりに心がけている。元気で野菜作りが得意な方と共に、畑を手入れすることもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候がよく天気の日には散歩に出かけている。今年は全員で都農ワイナリーに行った。また最近、近隣の方の好意でみかん狩りを楽しんだ。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。センサーも設置しているが、目配り、気配りを常に怠らないよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営者が防火管理資格を取得、職員が消防団に入り、地域の消防団や消防団OBとの交流を図るなど協力体制が整えられた。なお、市の消防との訓練が今月予定されている。	○	夜間はユニットごとに1名ずつの2名体制であるが災害時の対応への不安は大きいようである。夜間を想定した避難及び通報訓練を実施することで問題点を洗い出し、不安の軽減につなげることを望みたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の摂食量は全て記録している。水分補給は毎食ごとやおやつの際に定期的に行っているが、健康状態によって調整している。栄養バランスについては、過去の献立記録を見ながら配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには花を飾ったり、利用者の作品を掲示するなど、明るい雰囲気を出すように努めている。共用空間における配慮は行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全体的に簡素ではあるが、本人の使い慣れたものを持ちこんでいる。利用者それぞれの好みがそれとなく感じられるような工夫がしてある。		

※  は、重点項目。